

福島第一原子力発電所現地確認報告書

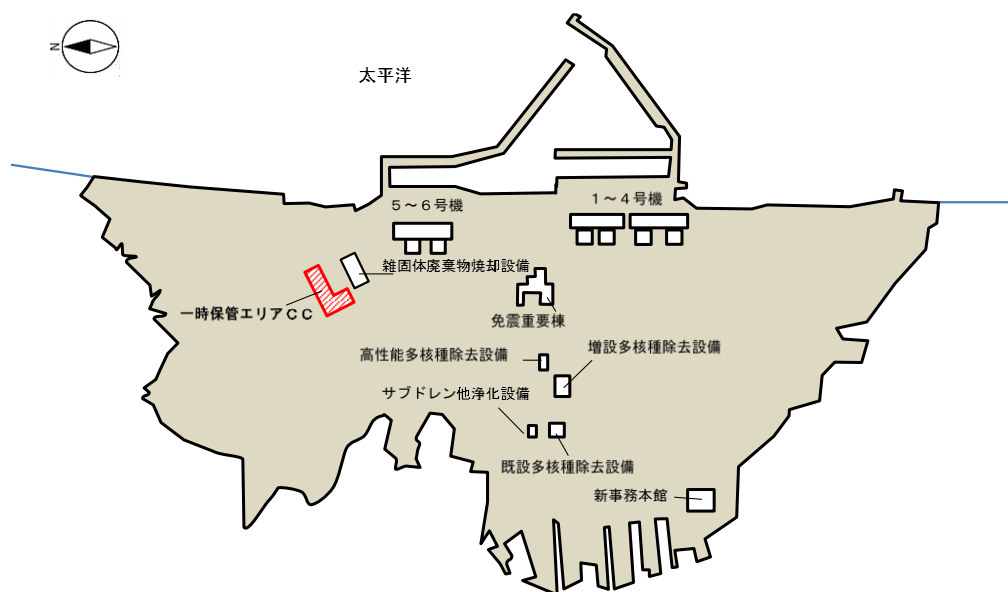
- 1 確認日
令和6年6月11日（火）
- 2 確認箇所
瓦礫類一時保管エリアCC（図1）
- 3 確認項目
同保管エリア内瓦礫類収納容器詰替作業に伴い発生した労働災害への対応状況
- 4 確認結果の概要

これまでの福島県沖を震源とする地震によりコンテナの傾きが発生した瓦礫類一時保管エリア（以下「一時保管エリア」という。）F1及びそれに隣接している一時保管エリアF2、CCの状況を定期的に確認してきた。

（前回確認：[令和6年4月15日](#)、[2月29日](#)）

一時保管エリアCCの北側では、経年劣化したコンテナを新しいコンテナに交換する作業が進められている。本年2月、旧コンテナから新コンテナへ内容物を詰め替える作業中に協力企業作業員が左手小指を金属ガラ間に挟み負傷する事案（不休災害）が発生したことから、モックアップ（検証作業）を含む再発防止対策の検討が行われた。

今般、その具体的な取り組み内容がまとまったことから内容等を聴取し、併せて現場状況を確認したもの。（写真1～3）



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図

<詰替作業における労働災害発生を受けての要因分析等>

- ・ 主な原因としては、金属ガラの重量を明確に定めず、足場の悪い中、手渡しに頼ってしまったこと。また、挟まれリスクも事前に認知するも“滑りリスク”にのみリスクを集中させたことが反省点。

<上記反省点を踏まえての対応等>

- ・ カイゼン内容としては、人力運搬の重量(10kg)を定め、同重量のバッグを作業者の前に置いておくなどして、重量の見極めを確実に行うことに改める。また、受け渡し形式をやめ、旧容器と新容器の間に作業台を設置することとした。
- ・ 加えて以下の更なるカイゼンについても具体化を図った。
 - ① バックホウではなく磁力（リフティング・マグネット）の導入
 - ② 重機操作者がより作業しやすいように工夫する。
 - ア 容器内の内容物をきちんと掴み易いようにミラーを設置。
 - イ 作業時においてミラーを起こし、容器前に設置する
 - ③ その他の関連留意事項
 - ア 作業領域内全体における良好な作業環境の確保（鉄板隙間チェック、滑り防止等）
 - イ マグネット引寄せ時のトラブル防止（十分な離隔距離の確保）
 - ウ コンテナ内に水ある場合の適切な対応（吸上げポンプにて吸引～水質検査・確認の上で輸送）を図る



(写真1-1)
一時保管エリアCC内
北側詰替え作業エリアの概観
(東側から撮影)



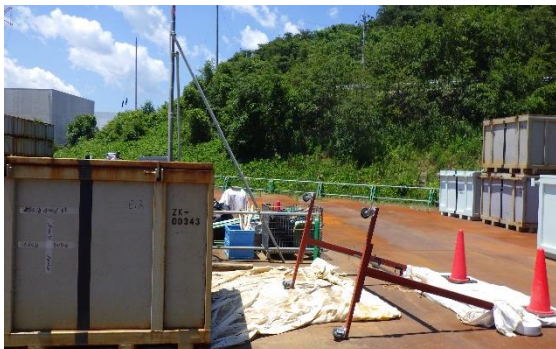
(写真1-2)
詰替え作業エリアで使用する重機
類（バックホウ2台）
(南側から撮影)



(写真2)
一時保管エリアCC概観と詰替え作業エリア内で使用しているダストモニタの取付け状況
(北側から撮影)



(写真3-1)
詰替え作業カイゼンで設けられた新旧保管容器間の補助台



(写真3-2)
詰替え作業カイゼンで設けられた重機操作を見やすくするためのミラー設置状況
(操作時に保管容器脇に立て掛けて使用する)

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。